17－3　分記法

【重要性：C】

ＰＯＩＮＴ！

①　分記法とはどのような記帳方法か理解しよう！

②　分記法における勘定科目を覚えよう！

③　分記法における仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「商品」勘定（資産）

「商品売買益」勘定（収益）

（１）分記法

分記法（ぶんきほう）とは、商品売買取引を「**商　品**（しょうひん）」勘定（**資産**）、「**商品売買益**（しょうひんばいばいえき）」勘定（**収益**）の２つの勘定を用いて仕訳する方法です。なお、「商品売買益」勘定は実際には「収益－費用」である利益を表しますが、通常、貸方に仕訳されますので収益と考えればよいでしょう。

（２）期首商品がない場合

例題17－３　**@100円の商品10個を仕入れ、代金1,000円は現金で支払った。そのうち、８個を@120円で販売し、代金960円は現金で受け取った。その結果、期末に、商品200円（@100円、２個）が在庫として残っている。（例題４－１と同じ数値です）**

①　仕入時（期中取引）

商品を購入すると資産である商品が増加しますので、「商品」勘定（資産）の増加として処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
商　　　　品	**1,000**	**現　　　　金**	**1,000**

②　売上時（期中取引）

商品を販売した時には資産である商品が800円（＝@100円×８個）減少しましたので、「商品」勘定（資産）を減少させるとともに、売価と原価の差額を「商品売買益」勘定（収益）で処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　　金	**960**	**商　　　　品**	**800**
		商　品　売　買　益	**160**

③　決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表（一部）

商　　　　品	200	商　品　売　買　益	160

④　決算整理

前T/Bにおいて、「商品」勘定（資産）が期末商品200円（＝@100円×２個）を示し、「商品売買益」勘定（収益）は当期の販売利益を示しており、経営成績と財政状態を正しく表しています。したがって、決算整理仕訳はありません。

⑤　決算整理後残高試算表（前T/Bと同じです）

決算整理後残高試算表（一部）

商　　　　　品	200	商　品　売　買　益	160

⑥　損益計算書・貸借対照表での表示

分記法を採用していても、損益計算書、貸借対照表は三分法と同じになります。つまり、当期の販売高960円（＝@120円×８個）を**売上高**として表示し、当期の売上原価800円（＝@100円×８個）を**売上原価**として表示します。

損　益　計　算　書（一部）

売　上　原　価	800	売　　上　　高	960

貸　借　対　照　表（一部）

商　　　　　品	200		

（３）期首商品がある場合

例題17－４　**期首に商品200円（@100円、２個）があった。@100円の商品11個を仕入れ、代金1,100円は現金で支払った。また、10個を@120円で販売し、代金1,200円は現金で受け取った。期末に商品300円（@100円、３個）が在庫として残っている。（例題４－２ と同じ数値です）**

① 繰越試算表

前期から商品200円が「商品」勘定（資産）で繰り越されます。

繰　越　試　算　表（一部）

商　　　品	200		

② 仕入時（期中取引）

借方科目	金額	貸方科目	金額
商　　　品	**1,100**	**現　　　金**	**1,100**

③ 売上時（期中取引）

借方科目	金額	貸方科目	金額
現　　　金	**1,200**	**商　　　品**	**1,000**
		商品売買益	**200**

商品：@100×10個＝1,000

商品売買益：売上高1,200－売上原価1,000＝1,000

④ 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表（一部）

商　　　品	300	商品売買益	200

⑤ 決算整理

決算整理仕訳はありません

⑥ 決算整理後残高試算表（前T/Bと同じです）

決算整理後残高試算表（一部）

商　　　品	300	商品売買益	200

⑦　損益計算書・貸借対照表での表示

損　益　計　算　書（一部）

売　上　原　価	1,000	売　上　高	1,200

売 上 高：@120円×10個＝1,200

売上原価：@100円×10個＝1,000

貸　借　対　照　表（一部）

商　品	300		

⑧　ボックス図（**例題17－4** の数値を使っています）

分記法でも、以下のボックス図を書くと理解しやすいでしょう。

商　　品

期首商品	200	売上原価	1,000
当期仕入	1,100		
		期末商品	300

商品売買益 200

売上原価 1,000 ←→ 売上高 1,200

（4）返品

返品は仕入や売上がなかったことと同じですので、仕入時や売上時の仕訳を取り消す処理を行います。

① 仕入戻し

仕入れた商品を返品した場合、仕入がなかったことになるため、「商品」勘定（資産）の減少として処理します。

例題17－5　仕入先から掛仕入した商品100円を品違いのため返品した。(例題10－2 と同じです)

仕入時に以下の仕訳を行っています。

商　品　100 / 買　掛　金　100

仕入戻し時には、仕入時の仕訳を取り消す処理を行います。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
買　掛　金	**100**	**商　品**	**100**

これにより、仕入はなかったことになります。

② 売上戻り

売り上げた商品が返品された場合、売上がなかったことになるため、「商品売買益」勘定（収益）の減少と「商品」勘定（資産）の増加として処理します。

例題17－6　得意先へ掛売上した商品120円（仕入原価100円）が品違いのため返品された。(例題10－3 と同じです)

売上時に以下の仕訳を行っています。

売　掛　金　120 / 商　品　100
　　　　　　　　　商 品 売 買 益　20

売上戻り時には、売上時の仕訳を取り消す処理を行います。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
商　品	**100**	**売　掛　金**	**120**
商 品 売 買 益	**20**		

これにより、売上はなかったことになります。

（5）値引

値引があると、当初の仕入価額や売上金額より安くなったことになるので、「商品」勘定（資産）や「商品売買益」勘定（収益）を減少する処理を行います。

① 仕入値引

仕入値引を受けると、仕入価額が安くなりますので、「商品」勘定（資産）を減少させます。

例題17－7　仕入先から掛仕入した商品100円に傷があったので値引10円を受けた。(例題10－4 と同じです)

仕入時に以下の仕訳を行っています。

商　品　100 / 買　掛　金　100

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
買　掛　金	**10**	**商　品**	**10**

これにより、90円で商品を仕入れたことになります。

② 売上値引

売上値引を行うと、その分だけ売価が減少するとともに、販売益も減少します。したがって、分記法では「商品売買益」勘定（収益）を減少させます。

例題17－8　得意先へ掛売上した商品120円（仕入原価100円）に傷があったので値引10円を行った。(例題10－5 と同じです)

売上時に以下の仕訳を行っています。

売　掛　金　120 / 商　品　100
　　　　　　　　 / 商品売買益　20

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
商品売買益	**10**	**売　掛　金**	**10**

これにより、110円で商品を売り上げたことになり、商品売買益は10円（＝110円－100円）となります。

第17章　商品売買③　問題

問題17-1　**以下の仕入帳と売上帳にもとづいて、商品有高帳の記入（先入先出法）と、1月中の売上原価と売上総利益を計算しなさい。なお、商品有高帳は毎月、締切を行っている。**

仕　　入　　帳

日	付	摘　　要	内　　訳	金　　額
1	3	A商店　　　掛け		
		商品X　　15個　　@80		1,200
	20	B商店　　　掛け		
		商品X　　14個　　@70		980

売　　上　　帳

日	付	摘　　要	内　　訳	金　　額
1	15	P商店　　　掛け		
		商品X　　12個　　@105		1,260
	28	M商店　　　掛け		
		商品X　　16個　　@100		1,600

問題17-2　以下の仕入帳と売上帳にもとづいて、商品有高帳の記入（移動平均法）と、1月中の売上原価と売上総利益を計算しなさい。なお、商品有高帳は毎月、締切を行っている。

仕　　入　　帳

日	付	摘　　要	内　　訳	金　　額
1	3	A商店　　掛け		
		商品X　15個　@80		1,200
	20	B商店　　掛け		
		商品X　25個　@76		1,900

売　　上　　帳

日	付	摘　　要	内　　訳	金　　額
1	15	P商店　　掛け		
		商品X　10個　@105		1,050
	28	M商店　　掛け		
		商品X　23個　@100		2,300

第17章　商品売買③　答案用紙

問題17-1

商　品　有　高　帳

(先入先出法)

日付		摘要	受入 数量	受入 単価	受入 金額	払出 数量	払出 単価	払出 金額	残高 数量	残高 単価	残高 金額
1	1	前期繰越	10	90	900				10	90	900
	3	仕　　入									
	15	売　　上									
	20	仕　　入									
	28	売　　上									
	31	次月繰越									

売上原価の計算

月初商品棚卸高	(　　　　)
当月商品仕入高	(　　　　)
合　　計	(　　　　)
月末商品棚卸高	(　　　　)
売　上　原　価	(　　　　)

売上総利益の計算

売　　上　　高	(　　　　)
売　上　原　価	(　　　　)
売　上　総　利　益	(　　　　)

問題17-2

(移動平均法)

商　品　有　高　帳

日付		摘要	受入 数量	受入 単価	受入 金額	払出 数量	払出 単価	払出 金額	残高 数量	残高 単価	残高 金額
1	1	前期繰越	10	90	900				10	90	900
	3	仕　　入									
	15	売　　上									
	20	仕　　入									
	28	売　　上									
	31	次月繰越									

売上原価の計算

月初商品棚卸高	(　　　　)
当月商品仕入高	(　　　　)
合　　計	(　　　　)
月末商品棚卸高	(　　　　)
売　上　原　価	(　　　　)

売上総利益の計算

売　上　高	(　　　　)
売　上　原　価	(　　　　)
売　上　総　利　益	(　　　　)

第17章　商品売買③　解答解説

問題17-1　**解答**

商　品　有　高　帳

(先入先出法)

日付		摘要	受入 数量	受入 単価	受入 金額	払出 数量	払出 単価	払出 金額	残高 数量	残高 単価	残高 金額
1	1	前期繰越	10	90	900				10	90	900
	3	仕　　入	15	80	1,200				10	90	900
									15	80	1,200
	15	売　　上				10	90	900			
						2	80	160	13	80	1,040
	20	仕　　入	14	70	980				13	80	1,040
									14	70	980
	28	売　　上				13	80	1,040			
						3	70	210	11	70	770
	31	次月繰越				11	70	770			
			39		3,080	39		3,080			

売上原価の計算

月初商品棚卸高	(　900　)
当月商品仕入高	(　2,180　)
合　　計	(　3,080　)
月末商品棚卸高	(　770　)
売　上　原　価	(　2,310　)

売上総利益の計算

売　　上　　高	(　2,860　)
売　上　原　価	(　2,310　)
売 上 総 利 益	(　550　)

問題17-1　**解説**

月初商品棚卸高は答案用紙の前期繰越から900と求めて下さい。

当月商品仕入高：1,200＋980＝2,180

月末商品棚卸高：@70×11個＝770

売上原価：900＋160＋1,040＋210=2,310

売上高：1,260＋1,600＝2,860

売上総利益：売上高2,860－売上原価2,310＝550

問題17-2　**解答**

(移動平均法)

商　品　有　高　帳

日付		摘要	受　入			払　出			残　高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
1	1	前期繰越	10	90	900				10	90	900
	3	仕　　入	15	80	1,200				25	84	2,100
	15	売　　上				10	84	840	15	84	1,260
	20	仕　　入	25	76	1,900				40	79	3,160
	28	売　　上				23	79	1,817	17	79	1,343
	31	次月繰越				17	79	1,343			
			50		4,000	50		4,000			

売上原価の計算

月初商品棚卸高	(900)
当月商品仕入高	(3,100)
合　　計	(4,000)
月末商品棚卸高	(1,343)
売　上　原　価	(2,657)

売上総利益の計算

売　上　高	(3,350)
売　上　原　価	(2,657)
売 上 総 利 益	(693)

問題17-2　**解説**

月初商品棚卸高は答案用紙の前期繰越から900と求めて下さい。

当月商品仕入高：1,200＋1,900＝3,100

月末商品棚卸高：@79×17個＝1,343

売上原価：840＋1,817=2,657

売上高：1,050＋2,300＝3,350

売上総利益：売上高3,350－売上原価2,657＝693